



1月の園だより

令和7年1月4日
目黒区立目黒本町保育園園長



あけましておめでとうございます。

静かな園舎が子どもたちの笑い声で賑やかになり新年の息吹を感じます。今年も子どもたち、保護者、保育士の笑顔が溢れる保育園になるよう願っています。

昨年、夏前に職員が黒土を固めて築山を作り崩れないようにシートをかけて寝かせて半年が過ぎついに年度末に築山の山開きをしました。定員一名の尖った山頂を競ってケンカが始まったので、保育士が「のこったのこった」と掛け声をすると雰囲気が一転し、お相撲ごっこが始まりました。負けた子はズルズルと山を滑り落ちるのでスリル満点です。長い列を作って勝負を楽しんでいました。山に白い砂をかけていた子が四つん這いで山に登ろうとするとズルズルと足がとられ下まで滑ってしまいました。「白砂掛けるとすべるよ」と友達に教えるとさらに白砂を山にかけてわざと四つん這いになり「滑る」ということを喜んでいました。子どもたちの一見危ないことや失敗かなということを楽しみ遊びに変える姿に柔軟な思考力や物事を探求する力が育っていることを感じました。沢山の発見に目を輝かす子どもたちと心をつなげて笑顔溢れる保育をしていきたいと思えます。



本年もよろしくお願いいいたします。

懇談会日程

- 0歳児クラス
- 1歳児クラス
- 2歳児クラス
- 3歳児クラス
- 4歳児クラス
- 5歳児クラス
- 場所 ホール
- 時間 16:30~18:00

行事予定



新年お祝い会	全園児
乳児お楽しみ会	0~2歳児
環境教室	3~5歳児
中旬	身体計測 避難訓練



リズム遊び



『 やってみたい もっとかっこよく 』 ~幼児クラス~

運動会でやり遂げた達成感が自信となり、リズムへの意欲が増しています。12月は『早馬』を取り入れました。身体を前かがみにして自分の順番を待っている3歳児クラスの子どもたちは、やりたいと意欲が溢れています。「どう」というような誇らしげな表情で手をめいっぱい伸ばし足も高く上げて見せる子や、前に出る時にとどきとどきしてしまう子は、友達と一緒に輪の中に入ると動いているうちに楽しくなり笑顔になっています。一人ひとりが動作を意識して取り組んでいるのは4歳児クラスの子どもたちです。“高くジャンプできた”“ピタッと止まれた”など少し難しそうなことにも挑戦し、できた喜びを感じています。5歳児クラスの子どもたちは、一列で勢いよく駆け出しスタートから3、4歳児クラスの子どもたちが釘付けになるほど迫力のある姿を見せています。もっとかっこいい自分を目指して、ピアノの音に合わせた力強い動きやメリハリのある動きに年長児らしさを感じます。

子どもたちは、リズムを通して身体を動かすと気持ちが良いことや友達と一緒に楽しいと感じ、自分の身体のことにも関心を持っているようです。曲に合わせて動く、止まるなど自分をコントロールする力も心と身体と共に成長しています。



～お部屋の中で好きなこと～



ひよこ組（0歳児）

『 もぐもぐ、おいしいね 』

“保育士が重ねカップの中にお手玉を並べていると「んー」と言いながら子どもがやってきました。お手玉を見ていたので「欲しいのね。どうぞ」と保育士が手渡すと、お手玉を取って口を動かして食べる真似をしながら頬に手を当て“おいしい”のしぐさをしています。「おいしいね」と保育士も頬に手を当てて声を掛けると、子どもは目を細めながら嬉しそうに保育士の頬にも手を当て「パンパン」とお手玉を差し出しました。「先生にもパンくれるの。ありがとう」「もぐもぐ、美味しいね」と話すと、それを見ていた子が這い這いでやってきて「マンマ」と声をあげ保育士の口元を見ながら「あっあっ」と手を伸ばしています。「〇〇さんも食べたいのかな」「どうぞ」とお手玉を出すと、自分の口元につけて笑顔を見せていました。生活の中で子どもたちが体験したことを保育士と一緒に楽しんでいきます。



りす組（1歳児）

『 おんなじことしたいな 』



一人の子が帽子とスカートを身に付け、行ってくるねと保育士に視線を送ると、長いベンチに座り、リングのハンドルを左右に揺らしてバスの運転が始まります。「乗せて」と友達が来ると「だめよ」がお決まりの返答ですが、友達は気にすることもなく隣に座ります。保育士が♪バスに乗ってゆられてる～♪と歌うと友達を断ったことも忘れて二人でリズムに合わせて身体を揺らし笑い合っていました。その楽しそうな雰囲気一人またひとりとハンドル持参で乗り込み運転手だらけのバスごっこを楽しんでいます。様々な玩具や自然物に触れ試したり、達成感を感じたりする一人遊びは子どもたちの想像力や友達との関わりの土台となります。これからもその姿を見守りながら友達と同じ場所で、同じことをやってみたい気持ちの芽生えも大切にしていきたいと思います。



うさぎ組（2歳児）

『 次の方どうぞ 』



お医者さんになった子が、牛乳パックで作った積み木の椅子にフェルトを長く繋げて作った聴診器を首から下げて座っていると「おなかがいたいんです」と眉をひそめた友達がやってきました。聴診器をお腹にあててから「ちゅうしゃしますね」と言うと「ちゅうしゃはやだよ」と応えています。「お薬がいいみたいですね」と近くの保育士も看護師役になって仲介すると、聞いていた友達が「おくすりもってきました」とペットボトルを差し出していました。「あたまがいたいんです」「あしがいたい」と患者の子が色々言うのを聞いて看護師役の子が数名現れ、熱を計ったりフェルトを包帯にして巻いたり自分のイメージした看護師になって甲斐甲斐しく手当が始まっていました。

病院ごっこや保育園ごっこでは子どもたちが経験したイメージを自分の中で膨らませ、役になって楽しんでいます。子どもたちそれぞれのイメージの違いを保育士が仲立ちしながら気の合う友達と同じ遊びを楽しめるようにしていきます。